広報あいかわ
毎月2回10日・25日発行
発行所
秋田県北秋田郡
合川町役場
編集人
合川町広報係
(合川町教育委員会
事務局内)
TEL李岱38番
(発行部数 2,350)

＝全県4Hク実績発表会＝

北地區クラブ全県優勝!!

三浦昭君(三木田4Hク)も個人二位に

第五回秋田県農村青少年クラブ実績発表会は去る十五日秋田市県児童会館ホールで県内各郡市代表約二十名と多数の聴衆を集めて行われたが、郡代表として出席した本町北地区農業クラブ(代表＝藤島幸一君)は団体の部で各郡市代表をおさえみごと全県優勝の偉業をなし遂げた。
また個人の部に同じく郡代表として出場した三木田四Hクラブの三浦昭君も二位に入賞した。

【写真＝団体優勝の藤島君(右)と個人二位の三浦君(左)中央は指導にあたつた田中普及員】

農村青少年クラブ実績発表会で本町の北地区農業クラブが団体優勝、また個人の部では三木田四Hクラブ三浦昭君が二位に入賞したことは別項のとおりであるが、係ではこの発表の要旨を紙上を通じてみなさんに紹介することとした。

〃団体全県優勝〃 北地区農業クラブ

代表　藤島幸一君

「私たちのクラブ活動」

クラブ員の構成は二十才以上が六人二十才以下六人、計十二人

地域農家一戸当りの平均水田耕作面積は六反二畝、畑三反の零細な経営規模で、しかも耕地は山間部にあり比較的恵まれない条件下にある。しかしクラブ活動により、ようやく経営の多角化に乗り出し、有畜経営などに進みつつある。

クラブ設立の動機は、青年会の活動にあきたらず同志六人が脱退して二十六年八月に四Hクラブを結成した。個人プロジェクトの成果は、二十七年早春に地域との連絡を密にするため「クラブ広報板」を共同作業により建設、農業改良事務所からのあらゆるデーターを掲示。プロジェクトには全員が畑作改善を取りあげいままでの低生産から脱皮し、生産を高め、飼料作物、換金作物の作付を目標とし有畜経営を目ざした。

クラブ活動の実績では、大豆栽培をとりあげた小笠原三四治君(増沢)が特に成績がすばらしく、従来の反収八斗から一躍倍の一石六斗余の収量をあげ全国大会に出場、その他のクラブ員全員もプロジェクトを達成した。

このようにして毎年着実に活動は進み、三十一年度は養鶏、水稲培土栽培、通し苗代の解消と三部門に集中し、特に合川町の産業振興の基本方針である養鶏を出場、その他のクラブ員全卒先研究実践に移し、クラブ員の半数が養鶏をプロジェクトに持ち普及の先端に立つて目ざましい活動を続けている。

〃個人二位〃 三木田四Hク

三浦昭君

「稲三早栽培について」

◎課題をとりあげた理由

ビニール畑苗代は裏作導入による経営改善に結びつくものとされているが、まだ苗代そのものに技術的な自信がなかつたため　まず技術的な研究をすべくこの課題をとりあげた。

◎規模、技術上の要点や成果など

ビニール畑苗代の実施面積は二十坪で、本田四反歩に田植を行つた(計画は五反歩)苗代のは種期日は四月五日、品種には農林四十一号を選んだ。

本田の栽培様式は二条並木植(一尺三寸×七寸×六寸)として施肥量は普通田の二割増とし　基肥として反当尿素二・五貫、硫安三・五貫　過燐酸石灰九貫、塩化加量四貫とし、穂肥には硫安一・五貫を施用した。

収量は反当四石一斗余で普通苗代に比し約五斗余の増収となつている。

◎主なる観察、調査の結果

普通苗代に比し、苗代期に於ては草丈が短かいが茎数多く、しかも根張りが非常によい。従つて田植後の活着もよく、殆んど色があせない。本田に移してからも分けつは極めて旺盛で、少し多過ぎるくらいであつた。

◎今後の計画

来年度は今年度のように畑苗代の実施により必然的に通し苗代が解消される事も考え合せた。

合川駅長更迭

後任は山田茂基氏

国鉄秋田管理局ではさきごろ管内駅長、助役級の大巾な異動を発令したが、この異動で当町合川駅長佐々木理作氏も局総務部付に転任することになつた。

佐々木駅長は去る二十七年二月神代駅長から羽後上大野駅長に転じ満五ヵ年の長期間にわたり在任、この間相次ぐ駅前の火災にあいながらも焼失した駅舎の復旧や駅名の変更に尽力された功績は大きく各方面から転任が惜しまれている。

なお佐々木駅長の後任として岩館駅から山田茂基氏がこのほど着任した。

第五回中央青年学級

総まとめは三月三十一日に

公民館がはじめた「合川町中央青年学級」は前号でも報じたとおり、回を重ねるごとに盛況をきわめ、去る二十四日には南地区を会場に「農村文化について」をテーマに開催したが、本年度総しめくくりともいうべき第五回目を来る三十一日午前十時から西小学校で開くことになつた。

当日のテーマは「共同学習について」が予定されている。

青年研究発表会

3月21日南中学で

公民館では来る三月二十一日南中学校を会場として「第一回全町青年研究発表会」を開催する準備を進めている。

この研究発表会の意図するところは、町内の各青年会、四Hクラブ、農事研究会などいろいろのグループやサークルがこの一年間真実の追求や生活技術の向上に努めてきた各種の研究を年度末にまとめて発表することにより、その研究をより効果的にし且つ、明年度の研究への足場としたいとするもので、町当局、各農協、婦人会等の各団体の協力をも予定されているので盛況が期待される。

◇日時　三月二十一日(木)午前九時半～午後二時半

◇場所　合川南中学校

◇発表者　東西南北各地区四名又は四組で計十六名(組)とし各地区公民館が推薦したもの。

◇発表時間　発表時間は十分以内

◇発表主題　農業問題のみに限定せず青年が関心を寄せていることのすべてについて行うものとする。

◇表彰　研究奨励のため若干の助成が予定されているが額は未定。

実施要項案は次のとおり。

役場執務時間

平常にかえる

十一月一日から実施していた冬季間の町職員執務時間(午前八時半～午後四時十五分)は二月末日をもつて打切り、三月一日からは平常どおり午前八時半から午後五時十五分となりました。

(総務課)

合川町示告第一号

左記により昭和三十二年度固定資産税課税台帳を縦覧に供する。

一、縦覧の期日
昭和三十二年三月一日より三月二十日までの二十日間
毎日午前九時より午後五時まで

二、縦覧の場所
合川町役場

三、審査請求の期間
昭和三十二年三月一日より三月二十日まで二十日間

右告示する
昭和三十二年三月一日
合川町長　畠山義郎

……各団体にお知らせ……

映写機を御利用下さい

町では公民館の協力により「合川町視聴覚教育協議会」を組織、県教育庁社会教育課から「ナトコ映写機」を借り受け、計画的に効果的な映画教室を開催運営しようと、すでに「風の又三郎」を中心とする映画教室(第一回)を終了、今後も毎月一回学童向と一般成人向の映画会を催す計画が持たれている。

ところが、町内各団体から「映画会を開かないで映写機が遊休状態のときには利用させてほしい……」という要望があるので、関係者が協議した結果次のような使用内規を定めたので、希望団体ではどんどん利用されるよう望んでいる。

◇映写機を借用する場合は一会場一回ごとに三〇〇円の損料を協議会に納付すること。

但し機械を損傷したる場合は修理費実費を負担すること。

◇映写機の操作は免許証所持者に限ること(現在町内小、中学校には七人の免許証持者がいるので、各学校に相談してもらうことが望ましい)

また操作担当者には一回三〇〇円の手当を支給してほしいこと。

◇フイルムは利用団体において準備することを原則とするが、フイルム借用の希望があれば、協議会で斡旋してやることもできるものとする。

◇詳細については教育委員会又は各地区公民館、各小中学校に連絡あれば便宜を取り計らう予定である。【視聴覚教育協議会】

救援米に感謝のたより

北海道から

町社会福祉協議会では昨年末町内各種団体に呼びかけて北海道冷害救援運動を展開し、各戸からの救援米と町内児童生徒の作文を集め、十二月末日北海道に発送したが、このほどこれを送られた北海道有珠郡荘瞥村長湯浅健治氏より畠山町長に宛て〻「町民の各位によろしくお伝い下さい…」との礼状が寄せられた。以下その礼状

(前略)

錦地生産者より寄せられた救援米、北海道救援対策協議会経由本日到着いたしました。衷心より厚く御礼申上げます。

冷害にあつた本村の零細農家では食糧の確保とてもなく、昨秋十一月より救農土木工事に従事することによつて辛うじて生活維持につとめている実情でありまして、今回の救援米の配給には深く感謝いたしております。

さらに児童生徒の皆さんからは多数の激励文をもいただき、これまた関係者協議の上適正な配分を終了いたしました。

このたびの御町民一同の真心こめた御同情には関係者一同喜びと感謝の意を表するとともに、いつまでも御恩は忘れぬつもりです。

御協力下さいました町民の方々には貴職より、よろしく御伝言を賜り度く御願い申上げます。

(後略)

……温床の準備はこうして……

日のあたる場所を選び

微生物の繁殖する條件を

暦の上では春というものゝ、まだ〜寒さはきびしいが、三月の声を聞くころになるとぼつぼつキャベツやトマト、ナス、キウリなどの温床準備にとりかゝる人が出てくる。

係では町経済課や農業改良普及事務所にいろいろと聞いてみた。

どんな場所がよいか

ナスやトマトなど野菜類の苗を温床で育てるのは、早出しが出来て有利にさばけること、畑で育成する期間が短くなるので跡作に都合がよくなり、土地の利用度が高くなることなどの理由によるものである。

温床を作るには、どんな場所を選ばなければならないかというと、まず風当りの少ない場所、また住家に近く、温床の世話に便利なところがよい。

温床作りは、寒い時期にやることであるから、朝早くから夕方おそくまで日がよく当る暖い場所で、周囲には北西に建物などの風よけがあり、しかも南側があいているところが理想的である。

春先に雪どけ水がたまったりする場所では、せつかくの温床が冷え込んでしまうから周囲に排水こう（溝）などを設けて、雨水や雪どけ水がしみこまぬように注意しなければならない。

種をまく時間

温床で苗を仕立て早作りする場合は一日でも早い方がよい。しかし早く種をまいて早植えすることも大切ではあるが、一番花―一番つぼみ―一番花芽を大切に保つことを忘れてはならない。

種まきの時期は本畑に苗を植える時期によつて決るわけで、いくら早く植えたくても、まず晩霜を考え、一方根が育つ地温も考えに入れなければならないのである。

五月二十日過ぎの晩霜は五十年に一回位の割合であるといわれているが、このころになると、地温も十二〜三度に上がつてくる。

ところで、こんどは定植の時期を決めなければならないが、苗床の期間は六十五日から七十日が適当である。しかし、すぐ床の熱が上がるわけではないので、二日か三日前には温床の準備を必要とする。こゝで大切なことは床土で、床土は水もちがよい半面に水はけもよくなければならないし、また保熱にも適し、病害虫のない養分を含んだ土という条件を備えていなければならないのである。

結局、堆肥を含んだ新しい（作物を育てたことのないという意味の）土でなければならないといえよう。

種まきは、二寸間隔のすじまきにすると都合がよい本葉がみえ始めたら仮植えをするのであるが、仮植えの株間がよい苗を作るうえにとくに大切であるから、ナスは四寸か五寸に一本、トマトは五寸か六寸に一本の割合とし、ただ一面の仮植で最後に「ズラシ」根回しを行うとよい。

要するに「移植回数をへらして株間を広げる」ことである。

温度や湿度の管理は種まきから芽芽までは「高温多湿」芽を出してから仮植えまでは「適温適湿」仮植え活着後は「外温育苗」の三段階管理をすればよい苗が得られるものである。

種のまき方と一坪当りの種子量

一坪の温床にまく種の量はナスだと一・五勺、トマト一・五〜二・五勺、キウリ五勺〜一合程度で厚まきしないようにすることである。

温床を踏込んで三日か四日たつと最高の温度が出て、これが三〜四日続くから床土をよくかきまぜて二寸おきにすじをつける。

この二寸おきのすじに三ないし四分ごとに一粒おちる程度に種をまくのであるが床一面にバラまきするのは感心したまき方とはいわれない。二勺の種は約四千粒内外あるから、昔どおりの発芽歩合をする種であれば三千本は生えてくる。

生えそろつたら五分に一本の割合で間引すると、一坪に三千五、六百の子苗が育てられる。最初の本葉が開いてきたころ、つまり二十日から二十五日目には四寸間隔に仮植えをする。

仮植えはなるべく一回だけ行うことを建前にすることが望ましい。仮植床はまき床の五〜六倍に広げられるから、まき床一坪で一反歩に広がるとみておけばよい。

熱の出るふみ込み材料と方法

温床を作つて一番心配なことは熱が上がるかどうかということだ。

トマトは発芽まで摂氏二五度、ナスは三〇度、キウリ二五度の熱が上がれば十分である。材料のワラとか木の葉やあるいは踏込み方を計画する前に、温度が上がり下りする理由を考えてみることにしよう。

踏込み温度の熱が上がるのは、堆肥を積んでおくと熱が上がるのと同じわけでワラや木の葉にいろいろなバイ菌が繁殖し分解するのであるが、そのときに熱を出す。したがつてそれらの微生物が繁殖しやすい条件をそなえてやることが大切である。

まず踏込みの材料に含んでいる炭素と窒素の割合が大切であるが、窒素はわれわれの生活にたとえれば、たん白質で　魚や卵にあたつている。したがつてワラばかりでは熱が出ないわけで、人ぶん尿や鶏ふんや硫安などをワラにまぜるのは炭素と窒素の割合を微生物の繁殖に都合のよいようにするためである。また踏込みに使う水の量は、ワラの目方の二倍程度とされている。

さて大事な温床の踏付け程度は、稲ワラ二十貫ときゆう（既）肥十貫を材料として、一坪一尺の厚さにする程度が適当である。温床のじようず、へたの別れみちは熱を上げると同時に床一面ムラなく熱を出させることである。

熱の出し方は、これまで述べてきた基準でよいが床面ムラなく均一に熱を出すには材料を均一に踏込むことである。

また踏付けのかたさの程度は、踏付け過ぎると空気が不足して微生物の繁殖に都合が悪く、反対にガサガサに踏付けておいたのでは微生物の活動が活発になつて、好気性の菌がふえ、高い熱を出すが、長持ちはしないものであるから注意しなければならない。

×

※係より

次号には「稲三早栽培のしおり」を掲載の予定です。

町民の聲

あなたと共に

住みよい、働きよい暮しよい、合川町の建設。これが町政のモットーです。

レコード・コンサートの開催をのぞむ

最近いろいろのグループやサークル活動が活発なところを見せていることは農村の文化発展のためにまことに喜ばしいことである。

私は、そこでこの文化発展の一端として、レコードによる音楽鑑賞会をぜひ開催されるように望むものである。

昨年四月の広報に報ぜられたところによれば、畠山町長さんが発起人となり数名の同好者が合川駅前でレコードコンサートを開催するとのことであつたが、その後どうなつているのか消息不明なことはとても残念に思つている。

最近いろいろな唄が町や村にハンランしているが、この際私は良い音楽を鑑賞し、正しく理解することによつて　良い音楽と悪い音楽の判断力が養成出来、また音楽には感傷的な面を知性的な面の両方があり、すぐれた音楽というものは、この両面が等分してよい調和を具えたものと思われるのである。

さて、レコード・コンサート開催の具体的なことについての私案であるが、まず誰でもが気軽に出席出来るものでなければならないこと。組織は会員制とし、レコード、アンプ等は会員の提供によつてもよし、レコード店やラジオ店等から借用してもよいと思う。

開催の場所は地域の事情なども考え、三〜四カ所ぐらいで催すようにし、作品の解説などについては学校の音楽の先生方に依頼することが適当な方法であろう。

一番問題となるのは経費であるが、これは会費制にし、会員は毎月一定の額を拠金するものとし、会員外の者でも鑑賞会に出席した者からは小額でも良いから負担していただくというよの入学式に先立つて子供た

その他、いろいろな困難もあると考えられるが、かつての発起人であられた畠山町長さんにぜひお願いする次第である。

町内の音楽同好者の方々から御意見をおうかがい出来れば幸いです。

【伊藤専、二十六才、杉山田、農業】

感心な少年自治会

（新）（田）（目）二粁の道を除雪奉仕

小、中学校の児童生徒で組織している少年自治会が十余年の長期間毎冬二キロにわたる雪道を除雪したり踏み固めたりして部落民から感謝されているという明るい話題――。

新田目部落と合川駅間には昔から約二キロに亘る道路（田んぼ道）があり、同部落と、隣接の福田部落の人々、とくに通勤者や通学生の殆んどはこの道路を利用しているが、冬になるとこの道路も雪にとざされて通行の途絶えることがしばしばあり利用者の悩みの種となつていた。

新田目部落では人夫を頼んで道路の雪かきなどを行い、これら通勤、通学者の利便をはかつたこともあつたが、それもあまり長続きしなかつた。

新田目部落には西小、中学校に通う児童生徒で組織する少年自治会があり、火の用心や道路清掃に活動しているが、毎年冬になるとこの会では自発的に新田目〜駅前間の道路の雪かきにも奉仕、雪の日などこれらのよい子たちが「踏みだわら」をはき雪道の踏み固めを行なつていることに感謝している。

関係部落では十余年も続いているこの奉仕活動に報い子たちを学校へなれさせるため「一日入学」を行うことになつた。

日時　三月二十二日午前九時半

内容　氏名点呼、校長先生以下各先生のお話、幻燈会

……新年度教科書……

出張販売はじまる　前期だけで80万円も

あと一ヵ月もすると町内各学校の児童生徒もそれぞれ一学年づつ進級する。

町内小中六校（東地区を除く）に教科書の取次販売を行なつている李岱のS商店にこのほど、明年度前期用教科書が到着、同店では店主が陣頭に立つて各学校に出張販売を開始した。

教科書代をかたく手に握りしめた子供たちが、休みの用心や道路清掃に活動しているが、毎年冬になるとこの会では自発的に新田目〜駅前間の道路の雪かきにも奉仕、雪の

【写真＝除雪に活躍するよい子たち】

◇店主Sさんの話

「わざわざ各地区から買いに来るのも大変なので出張販売をしていますが割合好評です。

こんど来たのは前期分ですが、教科書の価格は去年より下がつておりますし、また先輩？から安くゆずり受ける子供もあるようで取扱量も大したことはありません。

売上高ですか？　そうですな……まあ前期分だけで八十万円ぐらいのものでしょう……」

【写真＝新しい教科書を買う子供たち――西小で】

新らしい一年生の一日入学　西小

西小学校では三十二年度

内地留学

希望の方はお早く!!

先に広報を通じて募集いたしました「第二期内地留学生に応募される方は締切期日を延期し目下受付中ですから至急お申込み下さい。

合川町公民館
合川町経済課

あとがき

◇寒中に暖かく春近くなつてから吹雪が吹く。全く気まぐれな天気が多いせいか一向におとろえないのが流感である。

「俺は大丈夫さ……」といつて見たのも束の間、とうとう流感に見舞われてしまつたようだ。

◇杉山田の伊藤さんから別項のような投書があつた文化に恵まれぬいわゆるへき地の青年の声としてとりあげて見た。

音楽同好の士によつて一日も早くこの種のサークルが誕生を見ることが出来れば係としてもどんなにか嬉しいだろうと考えながら……。

◇三十二年度予算の作成も大詰に近づいたのか各機関の動きも活発である。赤字解消の二年目で大巾の削減ということになろうが、原案がまとまれば三月中旬ごろから審議されよう。

◇流感のせいでもないが、また期日におくれてしまつた。一日も早く定期刊行の軌道に乗せるべく努めたいと思いながら……

（二、二七―S）